

よこすかぬく森こども園



東側上空からの風景。既存で植えられていた樹木を活かすように6つの園舎と4つの園庭に細分化して園全体を構成した。



西側上空からの風景。三方の山々に囲まれ、西大谷川が北から南に向かって流れている。園は谷戸（やと）地形に沿わせるように、西から東に向かって緩やかに高低差を持つ。



こども園入口のアプローチ。木々に覆われたスロープを通して登園していく。アプローチ正面は管理棟が迎え入れる。

【原っぱと森】

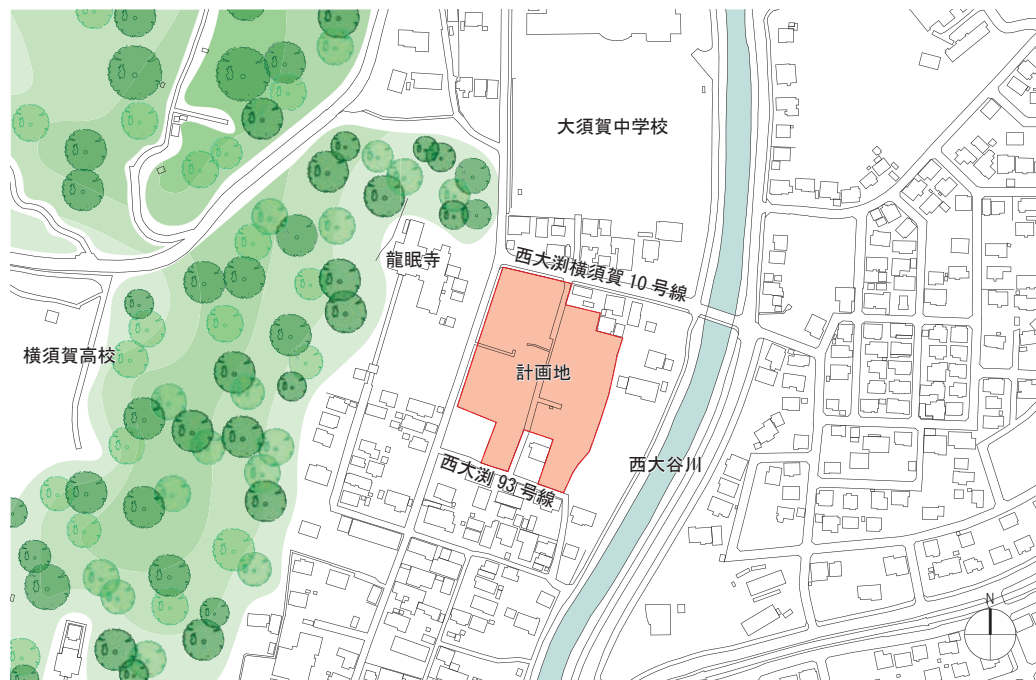
子どもは遊びを作り出す天才かもしれない。原っぱと森。どちらも遊び道具がなくても子どもたちは自由に遊べるし、思う存分環境を楽しむと思う。しかしながら、子どもは挑戦意欲が高く、何かと自分を試してみたいくなるのだろう。そう考えると、どちらも空間としてはオープンで繋がっているが、森には木々や地形によって様々な環境の変化があり、子どもたちにとっては遊び代のある環境の方が遊びを創造しやすいのかもしれない。

掛川市が取り組んでいる大東大須賀区域の幼稚園・保育園をこども園化するプロジェクト。敷地は、風情ある城下町のすぐ側に位置し、雄大な山々に囲まれ西大谷川が流れ、谷戸地形が特徴と言える。

最初に敷地を訪れて感じたのは、①地形に沿ったゆるやかな敷地高低差、②既存樹木が敷地に多く残っていたことだった。

①敷地内高低差：敷地の南西から北東にかけて最大2mの高低差がある。この敷地高低差を活かして周辺環境に馴染む自然な建ち方を目指した。

②既存樹木：敷地内に無造作に植えられていた木々を丁寧に選別し、樹木と建築が交じり合う配置を目指した。



2歳児棟から西側を望む。園庭に向かって軒高さを上げ、周辺の山の風景を建物に取り込むことで森に包まれた環境をつくる。



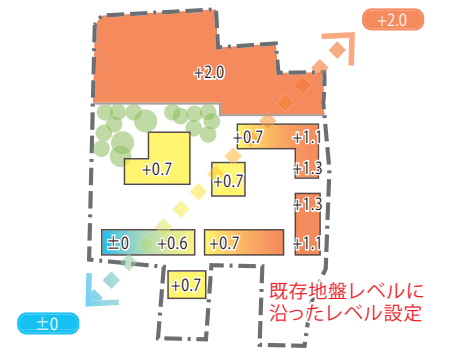
3歳児棟から園庭を望む。建物から4.5mはね出した半屋外スペースによって屋内的活動と屋外の活動が同居し、シームレスな子どもの活動を可能とする。



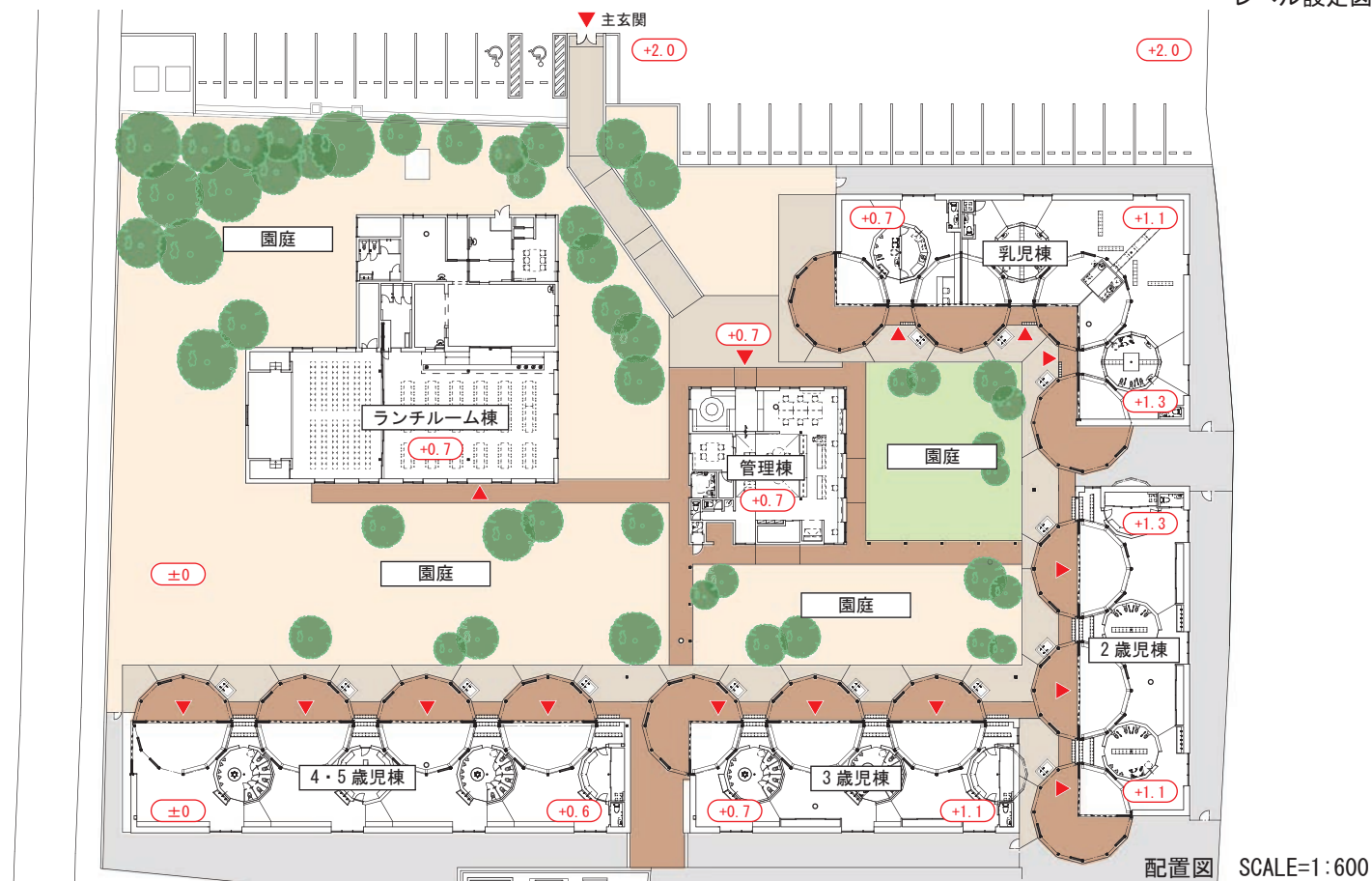
乳児棟。0歳から1歳児のための園庭。園庭には多種多様な植栽を配置し、自然の変化が感じられる環境とした。

【環境が交じり合う】

敷地は約9,600㎡、定員230名の設計条件に対して子どものスケールに合わせた園舎と園庭の関係性について問い直した。一般的に、園舎と園庭は二分化して計画することで屋内にも屋外にも原っぱのようなまとまったスペースを獲得することができるが、それは使いやすいよう子どもにとっては遊び代の少ない均質化した環境になりがちだと考える。園児は0歳児から5歳児ともなると月齢や年齢によって子どもの遊ぶレベルが違えば、クラスによって人数も異なるため、それぞれの特徴に合わせた保育環境が求められていると感じた。そこで、各歳児毎の園舎と管理棟、ランチルーム棟の6つの園舎と0・1歳児用と2・3歳児用、4・5歳児用の3つの園庭に細分化し、内と外、半屋外を織り交ぜることで、多様な変化を持つ環境を作り出した。



レベル設定図



配置図 SCALE=1:600



乳児棟の園舎・園庭を見る。低年齢児を見守るように乳児棟と管理棟を配置。地形に沿わせて園庭も傾斜することで子どもの五感を育む。



4・5歳児の活動風景。



3歳児棟の活動風景。12角形の柱やブレース、放射式冷暖房パネルによって暖昧に空間を仕切る。



3歳児棟の内部を見る。ワンルームな保育空間に対して、平面的な変化(2つの円形構造)と断面的な変化(床段差と2つの天井高)を加えることで様々な活動の場生まれ、流れるように子どもたちは遊びを展開していく。

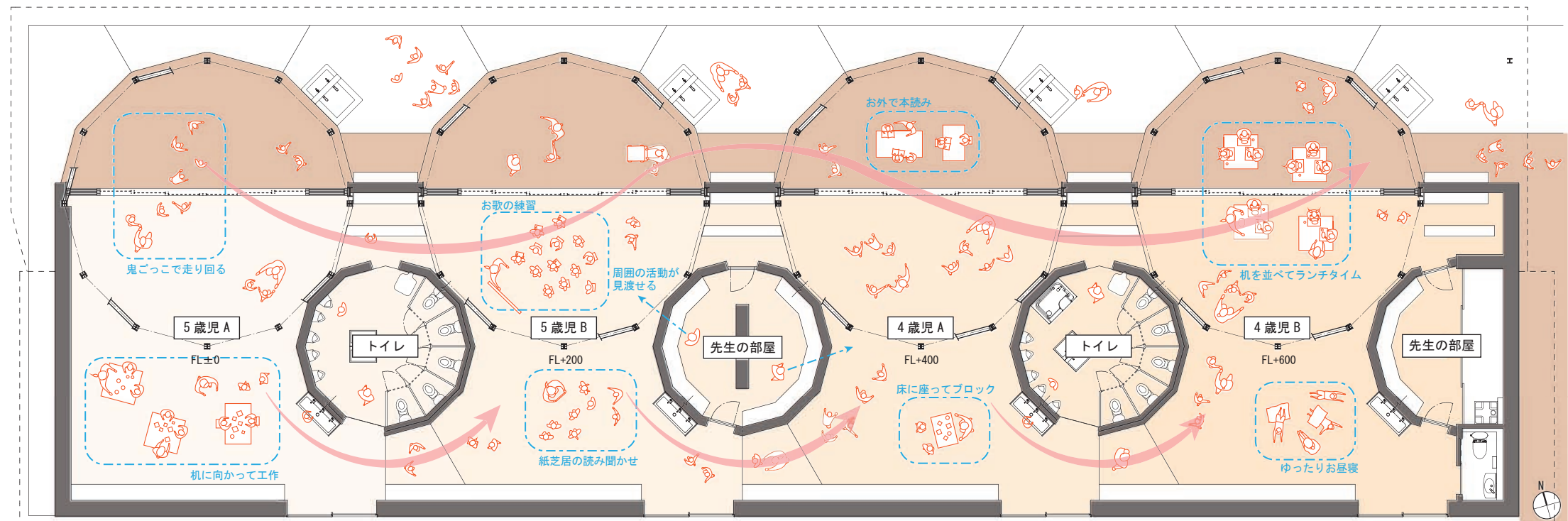
【流れる保育】

この園は「流れる保育」という保育理念を掲げている。子どもの主体性を重んじる考え方で将来子どもたち一人ひとりが自立をし、その子らしく生きていくことができるようにと願いが込められている。

自由な遊びが展開され異年齢交流も盛んに行われ、昼食時にはランチタイムという制度を設け、子ども一人ひとりが時間と体調を考えながら食事を取りに行く。簡単なようで難易度の高い保育理念だが、このこども園は子どもの主体性を保育士が暖かく見守ることで成り立っている。

建築もこの理念を体現するように子どもたち一人ひとりが朝から夕方までの太陽の動きや晴れや雨による天候の変化、四季の移ろいに気づき、時間の流れや環境の変化を肌で感じることで豊かな感受性を育むことを意図している。

すべての保育室は、2種類の12角形の円形構造とワンルーム空間で構築し、平面的な大小、小さな段差による高低差、2つの天井高によってワンルームな保育空間に差異を生み、森の木々に見立てた木柱は内外を横断し配することで屋内外に曖昧な領域を生み出している。



4・5歳児棟平面図 SCALE=1:150



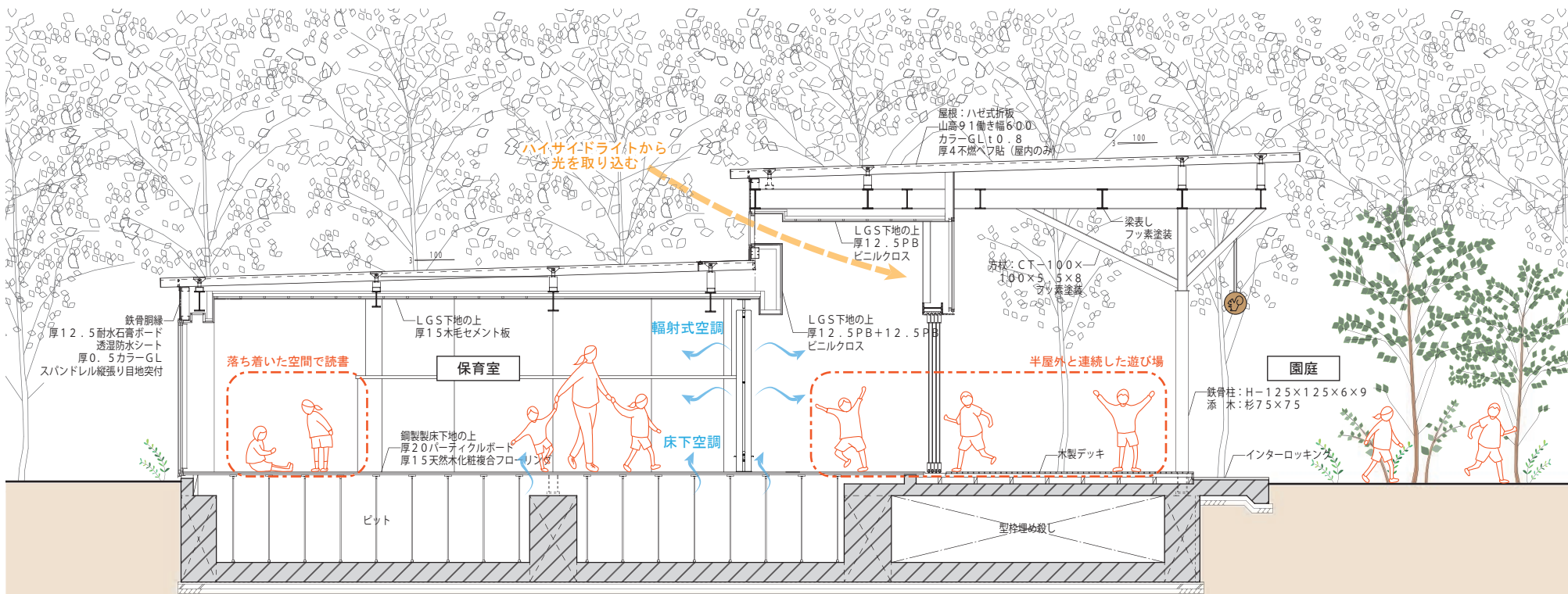
保育室の建具を全開放し、屋内外の空間が一体化する。



2つの円形の接線に合わせて手洗い場や空調吹き出し、輻射式冷暖房パネルを配置。



12角形の柱：H-125×125×6×9はスギ板をあしらい木の幹に見立て、
方柱：CT-100×100×5.5×8は円の中心と軒先に向かって伸ばし木の枝に見立てた。



保育室棟断面図 SCALE=1:75

【森のような構造】

森のようにオープンでありながら多様な変化を持つ保育環境を実現するために、直径8mの円形を内外を横断しながら構築した。

円形構造を園全体に展開していくことで柱は林立し森のように粗密を持った多様な環境を作り出すことができた。

所在地	静岡県掛川市横須賀
構造	保育室棟：鉄骨造 ランチルーム棟・管理棟：木造
階数	平屋建て（管理棟のみ2階建て）
敷地面積	9,637.48㎡
建築面積	3,052.54㎡
延床面積	2,426.27㎡
竣工年月	2021年3月
設計期間	2018年7月～2020年3月
施工期間	2020年4月～2021年3月
建築主	社会福祉法人 大須賀苑
撮影	高橋菜生写真事務所



すべての保育室に床段差@100を設け、
子どもの発育と空間の変化に寄与する。